

公民連携による熊本市有のスポーツ施設整備に関する提言書(案)【概要】

公民連携によるスポーツ施設整備に関する検討会議

- 「公民連携によるスポーツ施設整備に関する検討会議」は、老朽化等の課題を抱える4つの熊本市有のスポーツ施設の整備の方向性を熊本市において決定するに当たり、まちづくり・地方創生に有する価値等を踏まえ、民間活力の導入等を含めた様々な観点から検討を行うことを目的に、令和6年7月に県が設置。
- 本検討会議は、10名の有識者で構成され、5回の会議を重ね、次の7つの視点を踏まえ、それぞれの整備の方向性と優先順位について検討し、取りまとめた。

①一般利用と興行の関係 ②まちづくりの視点 ③立地・交通アクセス ④必要な規模・機能 ⑤民間・市町村との連携 ⑥整備・運営の主体・手法 ⑦コスト・財源・財政負担

整備の方向性

藤崎台県営野球場 (リブワーク藤崎台球場)

【移転再整備】

- 施設・設備の老朽化が進んでいる他、スポーツを「みる」ニーズや野球以外の用途に十分に対応できておらず、再整備が必要。
- 現地再整備に当たっての関係法令との調整のハードルの高さなどから、「移転再整備」が最も適当。

【付帯意見】

- 移転先の選定(駅近・街中)
- 新球場の需要創出
- 現球場の取扱い(熊本市との連携)

熊本武道館

【改修】

- 施設・設備が老朽化しているものの、県内武道界の象徴的施設であり、関係競技団体からの施設の存続と空調設置や環境改善を望む意向を尊重し、当面、「改修」とすることが最も適当。

【付帯意見】

- 早急な改修対応
- 新武道館整備のあり方検討

県立総合体育館

【現地再整備】

- 従来の社会体育施設としての役割に加え、国際スポーツ大会やプロスポーツ等への対応が求められており、再整備が必要。
- 体育館は、全天候型で汎用性が高く、現在地が「駅近・街中」であること等から、民間投資等も期待でき、「現地再整備」が最も適当。

【付帯意見】

- スピード感を持った整備推進
- 周辺まちづくり(熊本市との連携)

県民総合運動公園陸上競技場 (えがお健康スタジアム)

【現状維持(アクセス改善)】

- 築27年と比較的新しく、ラグビーワールドカップ2019の際に改修が行われている。
- 最大の課題は、周辺道路の渋滞であり、ハード・ソフト両面での対策が進められていることから、「現状維持」とし、「交通アクセスの改善」に努めることが最も適当。

【付帯意見】

- 将来的な球技専用スタジアムの整備検討

優先順位

- 県立総合体育館(現地再整備)を最優先とし、次いで藤崎台県営野球場(移転再整備)とすることが最も適当。
- 【付帯意見】 藤崎台県営野球場は、県立総合体育館の現地再整備から間を置かずに取り組むこと。
- 熊本武道館の「改修」は、優先順位に関わらず、早急に取組みを進めること。

観 点	施 設	藤崎台県営野球場 【移転再整備】	熊本武道館 【改修】	県立総合体育館 【現地再整備】	陸上競技場 【現状維持】
①施設再生の必要性		◎	◎	◎	△
②民間投資等の可能性		○	△	◎	-
③施設再生の効果		◎	△	◎	-
優先順位		2	3	1	4

今後の検討に当たって

- スポーツ施設の再生は、県民の健康や充実した生活の実現に加え、交流人口の拡大や地域・経済の活性化につながる「地域の拠点」になりうる。そのためには、スポーツ施設の再生だけでなく、スポーツ大会やエンターテインメント性の高い大規模イベントの開催など、ソフト面での取組みも極めて重要。
- 施設の再生には多額の費用を要するため、民間のノウハウと投資の積極的活用が不可欠。地元経済界はもとより、国内外の民間事業者の協力を仰ぎながら、整備・維持管理経費の確保や賑わい創出のための民間投資の促進、集客の核となる大規模イベントの開催等、県と民間事業者が連携し取り組むことが望まれる。地元市町村との共創に加え、県民施設としての機運醸成を図るため、広く県民が当該施設を支える仕組みの導入についても検討していただきたい。